

○各測候所地震觀測新設備 中央氣象臺附屬柿岡地磁氣觀測所にては新廳舎完成せしを以て本年二月十九日本臺より國富技師、鷺坂技師出張、ヅキーヘルト式水平動、同上下動地震計及び大森式地動計の据付を了し、觀測を開始せり。尙同所にては近く強震計及簡單微動計をも据付くる筈なり。

銚子測候所にては本臺よりの補助により地震設備擴張の筈なりしが本年二月二十三日本臺より和達技師、佐藤技師出張、ヅキーヘルト式水平動、同上下動地震計及大森式地動計の据付を了し、右地震計を以て觀測を開始する事となりたり。尙同所にては不日強震計、簡單微動計の据付を爲す筈なり。

長野測候所にては本臺より補給の地震計据付の爲め本年三月二日本臺より國富技師、石川技師出張ヅキーヘルト式水平動同上下動地震計及び大森式地動計の据付を了したり。尙同所にも右の外強震計及び簡單微動計を据付くる筈なり。

京都測候所にては豫て同所にて計畫中なりし地震觀測設備擴張のため本年ヅキーヘルト式水平動同上下動地震計を購入、本年四月三宅所長は右地震計の据付を了し直ちに觀測を開始せられたり。

○神奈川縣足柄下郡吉濱村海岸に於ける魚族斃死 神奈川縣橫濱測候所の報告に依れば吉濱村にては大

正十四年十二月十二日頃より毎朝五六寸の魚打ち上げらるゝ由、右に關し同所へ達せし足柄下郡々役所の調査は左の如し。

(前略)吉濱海岸に於ける魚族斃死の件調査候處最近一週間前(十二月十日頃)より鱒同海岸に群集し同所地曳網の如きは一日(最初の日)約一千籠(一斗樽入位の容量)の漁獲あり。尙引續き同網にて毎日四、五百籠の漁獲にて近年稀なる豐漁を示せしが隔々「マトウ」なる魚族が十日許り前より毎朝海岸に飛上りたるもの數尾を捕へたるものありしが、思ふに右鱒を追廻はし餘勢を以て砂地に波浪と共に打ち上れるものに非ざるかと察せらる。(後略)尙關東大震前にも「マトウ」なる魚族の海岸に飛上りし事ありしやに云へるを仄聞せり。

○輕石漂着の件 昨年來本邦各地海岸に輕石の漂着せるもの頻々たりし事は本誌第一卷第四號及び第五號に報ぜし所なれ共最近接受せし各地よりの報告を掲ぐれば左の如し。

一、札幌測候所報告 (大正十五年一月十五日)

昨大正十四年十月乃至十一月に於て本道後志及石狩一部の海岸に珍らしくも輕石漂着の報あり、其の各所の報告を總合して概要を左に記す。

漂着區域 南は後志國瀨棚郡海岸より北は石狩國濱益郡海岸に亘る沿岸にして其の盛に漂着を見たるは後志國磯谷郡及古宇にして瀨棚郡及濱益郡の兩端は最も少し(渡島國爾志郡乙部村にても捨得したる

趣なるも報告なし。)

漂着したる期間 岩内警察署の報告に依れば八月頃より岩内町より古宇郡泊村大字堀株の沿岸砂濱の處々に發見したりと云ふ。然れ共當時餘り人の注意を引かざるは其の少數なりし爲めか、人の注意を引く程群來漂着したるは十月中旬乃至十一月上旬就中十月下旬より十一月初めにあるが如し。北端の濱益郡は十一月下旬頃迄漂着せるものゝ如し。

輕石の形狀大小 輕石の大なるものは徑五寸の斧大のものより小は五分位の雀卵大の範圍にして鶏卵大のもの多數なるが形は中に稜角らしきものあるも是れ亦磨損す。多くのものは丸味をなせり。輕石の表面は汚染し青苔、細海藻小貝殻の寄生物、各石の小部分に附着し一見相當年月經過の觀をなせり。破碎して其の斷面を検するに灰白色を呈し輝石を含める事普通の輕石に同じ。

漂流の經路 此の輕石は何處より來りしかに付一考するに本道、此近海若くは松前郡大島(松前郡江良町村より南西方五十裡にある火山島)には何等異變なきを以て其れと認め難し、依て一昨大正十三年十月三十一日八重山列島中の鳩間島附近海底爆發の產物として其の經路を研究するに支那東海暖流の對馬を洗つて日本海に浸入する此海流に乗じて本道松前郡大島西方沖合に出て其より北上し奥尻水道を通じ輕石の群流が後志海岸中磯谷古宇の海岸に最も多く漂着し其海流の枝梢に乗ぜられたるものは其南北に少數ながら漂着したるものなるが如し。

漂流速度 輕石が盛に群遊漂着したる頃を假りに十月二十日として其鳩間島地變より起草して三百五十五日となる、而して鳩間島より對馬までと對馬より松前郡大島西方沖と夫れより奥尻水道を経て磯谷古宇の海岸までとを直線的に結付け其距離を概算すると約二千七百軒此長程を三百五十五日を要したりとせば一日の行程平均四漚一に當るが此暖流一日速度は概ね二三十漚なるに比すれば非常に緩漫と言はざるべからざるも途中風波に妨げられ逡巡しながら群をなして漂流せるものとすれば其岩面に寄生物の附着する敢て異とすべしにもあらざるべきか。各地よりの報告を左に拔録す。

漂着時日	漂着區域	大小及數量	報告月日
十月中旬	部内沿岸一帶	動植物寄生無數	十一月二日
十月下旬	同	同	十一月六日
本年八月頃	岩内町より古宇郡泊村堀株に亘る沿岸砂濱	目方十五匁乃至二十匁	十一月十日
十月二十五日頃	歪村沿岸	徑四寸一二寸	十一月十日
十月二十九日頃	島古丹沿岸	五匁一十三匁	十一月十一日
十一月六日午前七時頃	野塚村及敷島内村	同	十一月十一日
不 明	檜岸村字濱中海岸	同	十一月十二日
十月下旬	靦別海岸より有戸海岸	五分位より五寸位	十一月十七日
十月十八日頃	三本杉濱中	五寸位より五分	十一月十七日
十月廿三日午前七時頃	本目村輕臼村	寄生物あり	十一月十八日
十月廿三日午前六時頃	本島牧村大字島島泊板谷	寄生物あり	十一月十九日

十一月二十一日	檜岸海岸	一個拾得寄生物あり	十一月廿二日
十月十五日	美谷海岸	五六寸より五分位	
十月三十日	有戸海岸	同	
十一月二日	同	同	
不	測候所下海岸	寄生物あり	
十一月十日頃	厚田海岸大字嶺泊以内石狩川口迄	徑三寸より徑一寸、寄生物あり	十二月十四日
十一月二十七日	美谷海岸	五六寸位より五分位寄生物あり	
十月中旬より	濱益村海岸	同	
十一月下旬	少	同	十二月廿八日

一、福井測候所報告

漂着場所	初めて漂着日	軽石の大きさ	重さ	漂着の方向	最多漂着
三方郡西郷村	大正十四年十一月上旬	ベースボール位より鶏卵位	約二十匁位	不明	大正十四年十一月中旬
大飯郡高濱町	大正十四年八月下旬	一寸乃至三寸		不明	十一月
南條郡河野村	同	九		不明	十一月
丹生郡四ヶ浦村	同	八	大きいものは徑一尺位のものあり	北	同十一月二十三日
丹生郡越廼村	同	十一月	二百匁位のものあり	南	同十一月下旬

一、石巻測候所報告

本吉郡大島村三作濱	九月中旬	長徑一尺短徑七寸五分中には一尺五	極めて細き白草生ずるものあり
同郡御岳村登米澤風越	五月以來	六寸のものあり 眞徑七、八寸より二三寸	

一、新潟測候所報告

同郡歌津村海岸一帯	八月十四日	徑八寸小は一寸
同郡萩濱村海岸一帯	九月中旬	徑二寸乃至三寸
同郡萩濱村灣一帯	七月頃	徑一二寸のもの多數六、七寸のものあり
輕石一面黑色を帯び青苔の如きもの附着		

漂着せる場所	町村	同上	時日	輕石の大き及量	輕石に動植物の寄生せる模様
新潟市	海岸	同上	十一月三十日	拳大より小石多し	烏帽子貝及海藻附着す、
佐渡郡	河崎村	同上	十月五日頃	拳大より小石まで量は海藻に混じり多し	貝類附着せり、
同郡	西三川村	同上	十月三日頃	概して小石程度にして量多からず	海藻の發せるものあり、
同郡	二見村	同上	九月初旬	小石位にして量多く一戸に參百個より四五百個位拾ひし者あり	同
同郡	内海府地内村	同上	八月頃	小石程度	寄生せる模様なし、
同郡	若首村	同上	十月十五日頃より其の後風波襲來の毎に漂着す	拳大より小石位二〇匁より五〇匁	貝及海藻寄生す、
同郡	海外海府村	同上	九月中旬	拳大より小石程のもの無數に漂着す三四十匁	多く矮少なる海藻附着しあり蠶卵狀をなせる灰色の細微なる卵子の附着せるあり
同郡	相川町	同上	九月中旬	拳大のもの多し	青苔或は貝類附着せり、
岩船郡	瀬波町	同上	九月二十日頃	拳大より小石程度のもの多からず	輕石には大概青黑色の水垢の如きもの附着し且つ小動物の寄生せる痕跡あり、
西頸城郡	糸奥川町	同上	八月十日頃	大概小石位稀に拳大のものもあり量多からず	海藻貝類附着す
同郡	木浦村	同上	十月三日	同	同
同郡	磯部村	同上	九月下旬	同	同
中頸城郡	春日村上智治岸	同上	九月二十七日	同	同